6 本時の目標

登場人物の行動や会話などを表す言葉に着目し，子どもたちが力強くくじらぐもにとび乗ろうとしている様子を具体的に想像して読むことができる。

7 本時の展開(4／8)

過程	過程のねらい	学　習　活　動	個人研究との関連
見通す	これまでの学習を確認し，本時の見通しをもつことができる。	**1. 単元のめあてを確認し，本時の見通しをもつ。** ・「『くじらぐも』さんとのおもいでおんどくかいをひらこう」 ・今日はみんなでくじらぐもにとび乗るところだね。 **2. 本時の場面を音読し，誰が何をしているか確認する。** **3. めあてを設定する。** くじらぐもにとびのる　子どもたちのようすを　そうぞうして　よもう。	**＜研究内容3－①＞** 導入で挿絵や「くじらぐも」を提示し，子どもたちや先生がくじらぐもにとび乗ろうとしている場面であることを確認する。
深める	叙述に基づき全体で交流する中で，読み方を工夫することができる。 仲間の発表を聞いたり，言葉に立ち止まって考えたりすることで，根拠を明確にして考えることができる。	**4.　子どもたちがどのようにとび乗ろうとしているのか考える。** ・みんなで「天までとどけ，一，二，三。」と言っています。 ・みんなで手をつないで，丸い輪になっています。 **5.「天までとどけ，一，二，三。」と，とぶ子どもたちの様子を動作化して想像する。** **＜１回目，２回目の「天までとどけ，一，二，三。」＞** ・くやしいです。全然とべていない。 ・くじらぐもに乗りたい。 ・次は絶対とび乗るぞ。 **＜３回目の「天までとどけ，一，二，三。」＞** ・こんなにがんばっているのに。絶対乗るぞ。 ・あきらめないぞ。 ・くじらぐもといっしょに遊びたい。 **6. 空へふきとばされた子どもたちが言った言葉を考える。** ・わあ。やったあ。 ・もう最高。これでくじらぐもさんと遊べるよ。 ・うれしいな。 **7. 仮定型発問について，ペアで話し合い発表する。** もし，「天までとどけ，一，二，三。」の読み方が同じだったら。	**＜研究内容3－①＞** 「天までとどけ，一，二，三。」を動作化し，子どもたちのとび乗る様子を想像する。その際，「三十センチ」「五十センチ」「かぜがふきとばした」の言葉を提示し，「どのくらいとべたかな。」と児童に確認する。その理由を追求することで，子どもたちの様子や行動にある思いを読み取っていく。 **＜研究内容2－①＞** 全体交流でくじらぐもに乗ろうと力強くとんだ様子を十分想像した後，「『天までとどけ，一，二，三。』の読み方が違ったら。」と，仮定型発問をすることで，もう一度子どもたちの言動に立ち返り，内容を想像できるようにする。 **＜研究内容2－②＞** 仮定型発問の後，ペアで話し合う前に「じっくりタイム」をとり，自分の考えをもって，相手と交流するようにする。
振り返る	今後の活動への見通しをもち，意欲を高めることができる。	教師：でもさ，○○さんは「天までとどけ，一，二，三。」を大きく読んでいたけど，3回とも同じだったかな。もし、大きさが変わったらどうかな。 A児：私は，どんどん大きくなっていたよ。どうしてかというと，何回もやったらみんなの心が合ったから。Bさんはどう。 B児：わたしも大きくした方がいいと思うよ。どうしてかというと、順番に高くとんでいたから。 **8. 子どもたちの様子を思い浮かべながら音読をする。** **9. 本時のまとめを発表する。** くじらぐもにとび乗ろうって一生懸命ジャンプした様子が伝わるように読みました。	**共通視点** **【「学び続けるたくましさ」が育成されている姿】** 子どもたちの会話や様子を表す言葉に着目して，くじらぐもにとび乗る様子を力強く想像して読む姿。 **評価規準** **【思考・判断・表現】** 登場人物の行動や会話に着目して，子どもたちが力強くくじらぐもにとび乗ろうとした様子を想像して読んでいる。

8 個に応じた指導・援助

「天までとどけ，一，二，三。」とジャンプする様子を具体的に動作化できない児童には，「手をつないで」「まるいわになると」の言葉からその様子を想像できるようにする。また，高さの「三十センチぐらい」や「五十センチ」ぐらいが想像できるよう，高さが分かる物を提示し，視覚的にどれだけとんでいるのか分かるようにする。